

成績評価法

埼玉大学 教育機構
基盤教育研究センター

内容

- 成績評価の目的
- 成績評価の原則
- 成績評価の方法
 - 点数評価, ルーブリック評価, ポートフォリオ評価
- よい試験を行うために
- ルーブリック評価の実践・ポイント
- 試験の管理
- 参考文献

成績評価とは？

成績評価とは、あらかじめシラバスに設定した授業科目の目標に、学生が学習を通してどれだけ到達したかを測り、合否判定を行う行為

本学の単位修得の認定に関する細則

(授業科目の成績評価等)

第2条 授業科目の成績評価は、授業科目に設定された到達目標の到達度をもって行う。

2 前項に規定する到達目標は、規則第4条に規定するグレードポイント(以下「GP」という。)を認定するため明確なものとし、シラバスにより学生に明示する。

3 第1項に規定する成績評価を厳格に行うため、ルーブリックその他の到達度を示す明確な評価基準及びレポート・試験等の評価方法、その他必要な事項を定め、授業開始時まで、シラバス、WebClass又は初回授業資料等により学生に明示する。

成績評価の目的

- 授業の目的の明示とそれに基づく成績評価は授業を受けようとする学生との「契約事項」
- 評価は学生がその結果をもとに行動を起こすために実施するものであり、その後の学習をできるだけよくするために行う。
- テストは学習を支援するためのひとつの方法

テストの目的

テストは成績をつけるだけに行われるものではなく、以下の教育機能をもっている。

- 学生が授業で学んだことを整理する機会
- 学生が理解度を確認するための機会
- 学生がさらに学ぶ動機を獲得する機会

成績評価の原則

■何を評価するのか？

評価は授業科目の到達目標に応じて行われる。
成績評価の項目と学生の到達目標を対応させるとよい。知識領域，態度領域，技能領域のそれぞれを測定するのに適した方法を用いる。

■どのように評価するのか？

到達目標の設定→評価基準の設定→評価方法の設定→評価結果

成績評価の方法～いつ～

- 期末試験による評価以外にも、評価の目的に応じた評価時期、評価基準、評価方法を設定する。
 - プレテスト：学生のもっている知識の診断
 - 小テスト：学習した基本的な事項の理解度の測定
 - 中間試験・小レポート：学期の中間段階で到達度の測定
 - 期末試験・期末レポート：学期の終了時に最終的な到達度の測定
- 小テスト、中間試験、小レポート、期末試験、レポートなどの結果を総合して成績評価し、合否判定を行う。
- それぞれが成績にどのように反映されるか、シラバスに明記する。

成績評価の方法～どのように～

- 学習目標に応じた評価方法を選択する。

	評価方法の種類	学習目標
客観試験	○×式, 多肢選択式問題	知識, 理解
論述試験	いわゆる書き取り問題	知識, 理解, 問題解決能力
口頭試験	面接による試験	知識, 理解, 問題解決能力, コミュニケーション能力
実地試験	実際の行動を観察記録により評価	問題解決能力, 技能, 態度, 習慣, 創造力, 応用力, コミュニケーション能力
論文・レポート	テーマにそった論述	知識, 解析力, 叙述力, 論理性, 情報収集能力, 創造力

点数評価

- 成績評価を点数化しやすい科目では試験などの点数を用いて評価することも有用
- その場合は後述のように試験等の内容が学習の到達度を図る上で適切なものか十分吟味する.

点数評価の例

- ○○学についての理解が到達目標に達しているかを評価するために、レポート・中間試験・期末試験を行う。
- それぞれ20点・40点・40点満点で評価し、合計が90点以上をS, 80点以上90点未満をA, 70点以上80点未満をB, 60点以上70点未満をC, 60点未満をFと評価する。

ルーブリック評価

- 評価の項目をそれぞれの科目でいくつか設定し、その到達レベルをA, B, Cなど段階的に評価する.
- 成績評価を段階化しやすい科目では、各評価項目の達成度に応じて評価することも有用

ルーブリック評価の例

項目	レベルA	レベルB	レベルC
準備	すべての適切な材料が整っており、レポートに記述されている	すべての材料が出されているが、すべてが記述されているわけではない。もしくは不足していて途中で補充しなくてはならない。	必要な材料がなく、レポートへの記述もない。大きな手抜きがある。
手順	手順は根拠とともによく考えられており、適切である。	手順はもっと効率よく工夫することが可能であるが、不適切ではない。	不適切な手順である。
安全性			
効率			
...			

ルーブリック評価の利点

- どの程度まで努力すればどのような評価がもらえるのか，行動指針が明確になる。
- 学生が自らの学習活動を評価できる。
- 評価の幅が広がり，現実の学習場面に即した評価を行いながらもある程度の客観性が確保される。
- 教員による評価と学生による評価が比較検討できる。

ポートフォリオ評価

- 学生が日々刻々と変わる課題にどのように取り組んだかを細かく記録していく評価方法
- 教員は交換日記のように学生とポートフォリオをやりとりし、学生の課題に対する進捗状況を見守り、必要に応じてコメントや評価
- 中間・期末などの一発試験ではなく、日々の仕事ぶりを評価したいときに優れた方法
- 成績評価を日々の課題に対する取り組みにより行う場合に有用

よい試験を行うために

- よい試験の条件
- 試験問題を作るときの留意点
- 試験を実施する際の留意点
- テスト作成のためのチェックリスト

よい試験の条件

■ 妥当性

学習の到達度を測るのにその問題は適切か？

■ 信頼性

同じ集団に対して同じ試験を繰り返し行っても同じ結果が得られるか？

■ 客観性

誰が測っても一定の結果が計測できるか？

■ 効率性

評価が容易で、経済的・時間的にも実用的か？

試験問題を作るときの留意点

- 試験問題はコースの目標に応じて作られる
- 事実的な知識を重視するのか？
- 事実よりも原理を重視するのか？
- 概念の理解, 原理の応用, 解釈, 事象の分析など複数の目標をもつなら目標に応じた内容と形式を用意
- 論文体の問題は採点が主観的になりやすい
- 問題が大きすぎると答える方向や内容がまちまちに
例:「新憲法について述べよ」→「新憲法について①その制定前後の事情, ②旧憲法との比較, ③残された問題点について述べよ」

試験を実施する際の留意点

- 出題範囲を事前に学生に伝える.
- 授業の目標にあげた事柄は問題に含める.

テスト作成のためのチェックリスト

- 事前に学生に予告したとおりの形式になっているか？
- 学生が授業全体で獲得した知識やスキルによって解答することが可能な問題になっているか？
- 問題の分量は適切か？
- 問題文の指示は曖昧でないか？ 誤解をまねかないか？
- 解答欄のスペースは適切か？
- 問題の難易度は適切に分布しているか？
- やさしい問題から難しい問題へと配置されているか？
- 問題自体が興味深いものになっているか？

ルーブリック評価の実践

- いくつかの評価項目について、各グレードの典型となる言葉の評価基準として記述し、学習者の行動を評価する。
- 通常、表の形で示され、グレードの判定結果を評価項目ごとに記入する。
- 学習プロセスの中の場면을切り出し、それぞれに評価項目を立てる。

ルーブリック作成のポイント

- その単元で達成する目標, 内容を網羅
- ルーブリックで扱う範囲を決め, 表を作成
- 評価語が標準的で客観的かどうかを確認

試験の管理

■ 不正の防止

- 学生の不正行為は発見することに重点を置くよりも、不正を防止することの方が大切.

■ 試験監督の際の留意点

- 試験のアナウンスとともに、カンニングが本人にもたらず結果について話し、カンニングをしないように伝える.
- 試験のあいだ学生の机の間を歩くなどして監督者が見ていることを知らせる.
- カンニングと疑われるような行為をしている学生が現れたら、その学生の横にしばらくたって見る.
- カンニングは現行犯なので、後日の呼び出しなどは効力がない.

参考資料

- 国立大学法人埼玉大学単位修得の認定に関する細則（平成26年11月27日規則第20号）
- 「愛媛大学：成績評価入門」
http://www.spod.ehimeu.ac.jp/contents/__contents2_5.pdf